

令和3年度 第1回 松本市多文化共生推進協議会会議録（要旨）

1 日時

令和3年10月7日（月） 午前10時～正午

2 場所

パレア松本 ネットワーク室

3 出席委員（13名）

会長	佐藤 友則	委員	陳 思静
副会長	犬飼 プリヤモン	委員	持山 シャロン
委員	中村 純子	委員	松井 一晃
委員	村井 博子	委員	岡田 忠興
委員	久保 愛	委員	古畑 祐司
委員	高橋 淳	委員	河西 智
委員	マキナリー 浩子		

4 事務局

住民自治局人権共生課	課 長	清沢 卓子
同上	主 事	梶山 直樹
同上	主 事	林 史憲

5 会議次第

(1) 開会・あいさつ

(2) 会議事項

ア 第3次松本市多文化共生推進プランの策定について

イ 令和3年度のキーパーソン事業について

ウ その他

(3) 閉会

6 会議の要旨

次ページ

事務局

（「第3次松本市多文化共生推進プランの策定」について資料を用い事務局から説明）

会長

ご説明ありがとうございました。

プラスのコメント、マイナスのコメント様々あるなど見ておりました。（資料1）2ページのNo.4「情報発信に関して～」とありますが、キーパーソン・ICT・やさしい日本語に触れられており、第3次プランを非常に読み込んだ上でのありがたい意見をいただいたと思います。また、意見にある「情報を読まない方に重要と思ってもらおう」ための物として、本日配られた第3次プラン概要版をどんどん配り、たくさんの人に見てもらおうという取り組みを、市で考えてくれたこともうれしく思います。

他の皆さんからいかがでしょうか。

委員

（資料1）4ページのNo.10ですが、とても大切な意見だと思います。外国ルーツの子どもたちだけでなく、周りの日本人の子どもたちに国際理解教育を行い、国際理解が進むと、外国ルーツの子どもたちも、日本人の子どもたちもお互いにとっていい環境になると思います。できれば、小学校の頃から国際理解教育に力を入れた方がいいと思います。

会長

今のご意見に対し、何か意見はございますでしょうか。

委員

私も今の意見にとっても賛成です。地域の大人のコミュニティの中にどう受け入れていくのかも、もちろん大切ですけれども、学校教育の中で国籍の違う子どもたちが一緒に学ぶ環境を作るのもとても大切で、その環境づくりを主導するのは、学校の先生、担任の先生だと思います。担任の先生は今とても忙しい。学校教育も指導要領も変わっていく中で、別の国籍の生徒を受け入れることが負担になると感じている先生もいらっしゃいます。でも、その先生たちは、やる気はあるけれども、どうやっていいか分からないということと、時間を捻出することができない状況です。できれば、こういった会議の場には教育委員会の方にも出席いただいて、いっしょに学校教育の場からも、どういう風に多文化共生の感性・能力を育てるかという政策や考えを議論するのもいいと

思います。松本は外国籍の子が多いので、学校の先生たちを対象に、例えば、外国籍の子・日本籍の子いっしょにこんな多文化共生の活動ができますよとか、そういうセミナーをやったらいいのではないかなと思います。学校の先生のサポートも必要かなと考えました。

会長

貴重なご意見ありがとうございました。なお、松本市子ども日本語教育センターが2009年に発足し、2010～2011年くらいからは、中信教育事務所などが中心となって、松本市子ども日本語教育センターのコーディネーターが講師となり、松本市だけでなく、中信地域の先生方を対象に研修が熱心に進められています。最近では、教育委員に多文化共生の専門家も入っており、ある程度教育委員会との連携という意味では、松本市は悪くない方かと思えます。

ただ、おっしゃるように、子どもたちに実際に接するためのスキルというのは、先生になってからどうこうなる話ではなく、本来は教員養成の段階から、スペシャリストを育てる必要があります。現状、多文化共生の教育は、学習指導要領にも書いておらず、多文化共生基本法レベルで教育を考えないと進まないというのが、私の考えでもありますし、多くの関係者の意見でもあります。

(資料1) 4ページのNo.10に「アイデンティティ」という言葉が書いてあります。アイデンティティが揺らぐ、さらに最悪の場合崩壊して、自殺もしくは犯罪に走るといったことに繋がる、大変危険な問題でもあり、逆に優秀な人が育てば、GAFAsの創設者のような人材も育つ。いわば、プラスに進むかマイナスに進むか、そういった点も大事だと思います。

(資料1) 5ページのNo.15「外国籍の子どもたち～」は、今のNo.10と非常に関連のある話で、日本人の子どもへの国際理解教育について聞かれています。先ほど、小学校からの国際理解教育のご意見がありましたが、私は、本当は保育園からの教育が大事だと思います。私の子どもは、幸いにも8カ月から保育園でイギリスのハーフの子と一緒に育ってきました。そういったケースでは、違う顔の子どもがいるということを珍しく感じません。ただ、その保育園でその子供が他の学年の子どもとも、うまくやっていたかという点、なかなか難しく、その子は残念ながら小学校で不登校になり、中学生の時に松本から出て行ってしまいました。そういったケースが本当に多い。アイデンティティの問題や、周りの子からのいじめ問題は、先生方がきっちりと日本人の子どもの側の教育をできるかにかかっています。逆に言えば、日本人の子どもが、日本も世界も関係なく自分は生きていくんだ、という強い意志を持ったグローバル人材になる意味でも、保育園からの国際理解教育は極めて大事だと思っています。

ます。

他の委員さんからもお願いします。

委員

2つお話いたします。1つは、先ほど他の委員さんからお話がありました教員向けセミナーなのですが、佐藤会長からもお話があったほかに、私ども CTN の方で今までの実績として、鎌田中学校の職員の研修会を担当させていただきました。子ども日本語教育センターのコーディネーターを講師にして、外国由来の子どもたちについての講義をさせていただいたことがあります。ちょうど、こちら（ネットワーク室）を会場に多文化共生プラザのイベントとして「外国由来のキッズ集まれ～夏休みの勉強会～」の開催と同時に研修会をしまして、子どもたちの現場を見ていただくことを行いました。コロナ禍もありまして、人が大勢集まるイベントを控えており、今年度はできておりませんが、今後も学校の方から要望があれば、個別に対応できるかなと考えておりますので、ぜひ進めていきたい分野でもあります。

（資料1）6ページの No.2 「外国ルーツの高校生や保護者～」について、一言申しあげます。先日、私ども CTN で開催いたしましたイベントの中でご報告させていただいた案件ではありますが、高校への入学についての課題なのですが、外国由来の高校生の退学率が大変高くなっております。がんばって勉強して高校に入ったものの、学校の勉強についていけず、退学せざるを得ないという子どもが大変大勢います。やはり、日本社会で仕事をする中で、高校卒業という資格は大変重要なものですが、その資格を得られずに希望する職につけない若者がたくさんいることが事実でございます。高校と言うと、県立であったり、私立であったりで、松本市の手を離れてしまうという現実がございます。それは長野県が考えることだからとか、各学校が考えることだからという風になってしまうのが現状なのですが、必要な支援が途切れることのないように、松本市も支援していただいたりするのが子どもたちのため、松本市のためになるのではないかと思いますので、よろしく願いいたします。

会長

ご意見ありがとうございました。中学校の先生方への研修、それに高校に入学した外国由来の生徒たちへの何らかの支援というのも考えていけないか、というご意見でした。

9月29日に私ども CTN で外国由来の子どもたちについて考えるイベントを実施し、100名ほどの参加がありました。そして、外国由来の子どもたちの生の声を録画し、流しました。その内の1人が、中学3年生のフィリピンの

子で、高校に入るためにがんばっているという話でした。彼女はフィリピンに帰って、帰っている間に言葉やいろんな点で合わなくなり、フィリピンでもいじめに遭い、また日本に戻ってきて生活日本語や学習日本語で苦勞して、さらにいじめに遭いという大変な生活を送っていました。その子が子ども日本語教育センターのサポートが入った後は、「思ったよりよかった」「心を打ち明けられる第三者がいるのはよかった」と言いつつ、「高校でも追いつけなかったらいやだな」と述べていました。それが非常に印象的でした。子ども日本語教育センターのサポートは、来年の3月で終わってしまいます。それ以降、公的にサポートはできません。M ウイングで実施している CTN の事業、「ヤング日本語教室」では、「高校生になっても通っていいよ」「高校卒業した後、こういうキャリアもあるんだよ」というサポートをしています。純粋な無償ボランティアで大事な仕事をしてきています。私たち CTN も財政的に余裕がないので、本来なら雇用して仕事としてやってもらいたい仕事を無償でもらっている状態です。そういった形でしか、高校生のサポートはできていない。何とか高校卒業、そして将来的に日本の社会の中で生きていける。そして、社会人になってからも学び直しができる。そういったルートを作っていければと強く思います。

事務局

高校生の日本語指導に関する国の動きについて、情報提供いたします。文科省で高等学校における日本語指導のあり方に関する検討会議が今年度開かれており、高校における日本語指導の制度化の実施方策について、専門家による提言が先月まとまったところがございます。高校に在籍する日本語指導が必要な生徒は増加をしており、平成30年度の時点で4,000人を超え、10年前の2.7倍の状況です。高校においても特別な教育課程を可能にする必要があるという考えのもと、提言がまとめられました。

会長

情報ありがとうございました。文科省としても、検討会議を含め多文化共生の専門家を呼んでの提言を作るという作業をしています。問題はその先、予算をとってそれを実現するかということ、その点で文科省は弱いです。その意味でも私は多文化共生基本法ができ、保育園から高校まで含めサポートすべき、とならないと動かないと思います。

他の委員さんからいかがでしょうか。

委員

少し離れてしまうかもしれないのですが、私どもの仕事は児童館や児童クラブでの子どもたちとの生活になりますが、そこに留学生のアルバイト職員が一度入ったとことで、子どもたちの情緒などにいい変化があったことがありました。その方が離職された後、他の外国人職員を募集したこともありましたが、日本語力や人件費の面から断念したこともありました。何か、人件費の面や、雇用に関するサポートがあればありがたいと感じています。

また、この第3次松本市多文化共生推進プランのパンフレットは、誰を対象にしてものでしょうか。

事務局

これまで、第1次、第2次でも概要版のパンフレットは作成していませんでしたが、パブリックコメントでも「プランの周知をすることが重要」という意見もありましたとおり、プラン・多文化共生の取り組みの周知を目的に作成いたしました。例えば、多文化共生のイベントの際などに市民に配布することを想定しています。

委員

ありがとうございます。ただ、日本人向けの資料で、外国由来の人にとっては、分かりにくいものかと思って意見いたしました。

会長

ありがとうございます。こちらの概要版の作成には、私も携わりました。これは、失礼ながら、私の中では完全に日本人向けです。(資料1)の5ページのNo. 16に戻っていただきたいのですが、こちらは数少ないマイナスの意見でした。「外国人受入れ議論の前に、市の少子化対策、労働政策を議論すべきでないか～」とあります。正直申しあげると、市民の多くの方がこのように考えていらっしゃるのではないかと思います。そういった方々が、もしこのパンフレットを手にとって、こんなデータがあるんだと知ってもらえればいいと思います。ただ、渡すだけでなく、松本市は2011年にプランを策定し、いろいろ取り組みを行っているという説明も必要だと思います。プラン策定後市職員の意識は変わってきていますが、市民全体の意識も変わってこない、いろいろな点は回らないと思います。それはいくら、法律ができ、財源ができて、意識が変わらないと正直幸せにはならないと思います。その意味でこの概要版を多くの日本人市民に知ってもらいたいと思います。

その前の児童館への留学生採用の話も信大教員として聞いていましたが、日

本語は N1 レベルで、日本語で論文を書く留学生もたくさんおりますので、留学生の能力不足というよりも mismatch、あるいは、そういったところでのアルバイトがあるということを知らないという面があるのかなと思いました。これに限らず、留学生の就職というのは、mismatch が起こりやすく、それを解消するために大学としても努力しているところですが、何か情報交換していければと思います。

他の委員さんいかがでしょうか。

委員

今の多文化共生推進プランの概要版についてですが、ほとんどの住民のみなさんは用語の意味などご存じないと思います。私は、10年くらい前に大学の同窓会で30人くらいを対象に「多文化共生」についての話をした時に、「多文化共生」という用語を聞いたことのある方は、1人しかいませんでした。その後の10年である程度進んでいますが、まだまだ認識されていない状況があります。ですので、この概要版を出すのであれば、まずは多文化共生が何かという説明がないと、なかなか手に取ってもらえないのではないかと思います。誰に向けてという話にもなりますが、もう少し検討が必要だったかなと感じました。

また、私は行政書士をしており、行政書士は在留資格を専門に扱う人もいますが、その人たちもなかなか多文化共生の理解が進んでおりません。最近ようやく東京の行政書士会で多文化共生について興味を持つ方が出てきたというレベルで、私も来年の3月に東京で多文化共生について話をしてほしいと言われ、やることになっていますが、それくらい理解が進んでいない現状です。

会長

ありがとうございます。これまでの実態調査の結果を見ても、10年前よりは意識はよくなっておりますが、十分ではないのは確かです。

ただ、概要版の表紙に関しては、1ページ目に字があるよりも、イラストの方が手に取ってもらいやすいと感じました。そして何より、いろんなイベントの場でプランの説明をする場がどれくらい作れるのか、というのが大事になってくると思います。他の委員さんからもお願いします。

委員

先ほどから、国際理解教育というのがずいぶん議論されていましたが、これからの人たちに多文化共生を考えていただく、浸透するためにはそれが一番いいと思います。ただ、そういう世代じゃない人たちの認識、多文化共生という言葉を聞く機会がない人たち、そこが現実の問題として挙がるのではないかと思います。

ます。(資料1) 1 ページ目の **No.3**「成果指標の外国人住民の地域活動の参加割合～あまり無理をしなくてもいいのではないか」という意見があり、これが多分一般的に思われていることではないかと思います。この意見の根底にあるのは、外国人はお客様という意識です。ですが、パンフレットにも示されている通り、外国人の方たちは声をかけてもらいたい、地域活動に参加したいと考えており、その意識の違いはけっこう大きいのではないかと考えています。外国人住民の参加しやすい環境づくりが大切だと思うのですが、これをもう少しアクションに結びつくような案があればいいかなと考えていて、実は私の地域は伊那ですが、けっこうベトナムの方がいらっしゃいます。そのベトナムの技能実習生の方はなかなか地域の中に入っていくことはないのですが、仏教が中心の国ですのでお寺に鐘をつきにくるんだそうです。国々でコミュニティを作りやすい場所、または声をかけやすい場所があるので、例えばそういった所の方にキーパーソンになっていただくなど、地域の特徴を生かしながらのキーパーソンの発掘というのにも必要なのではないかと思います。

会長

伊那市に限らず、松本市もベトナムの技能実習生はかなりおります。ただ、ベトナムの方というよりも、技能実習生というグループが日本の地域社会と繋がりが弱いというのは有名なことです。企業が特に囲い込んでいるあるいは、あまり地域社会に出る時間的余裕もない、接する機会も少ないということではなかなか繋がりにくいということがあります。ただ、**CTN** で技能実習生を対象にしたオンラインの日本語教室を実施したところ、そこにはかなりの参加がありました。そういったことも含め、いろいろな工夫で繋がれる機会はあると思いますし、オンライン教室というのはその一つにもなると思います。それは、ぜひ松本市でも進めていただければと思います。

また、松本市には玄向寺というお寺があり、その副住職さんが熱心にヤング日本語教室にお菓子を配っていただいたり、日本人の子どもも含めフードバンク的な活動もされており、工夫次第でいろいろな方にキーパーソンになっていただけたらと思います。

他の委員さんいかがでしょうか。

委員

プランも、概要版のパンフレットのような目に見える形になると、非常にワクワクする部分もあり、ここが出发点だろうとも思います。5年後ということではなく、ここに載っていないことも含め、やれることからやってもらえればと思います。ながら今日は聞いていました。

会長

ありがとうございます。他の委員さんからもお願いします。

副会長

アイデンティティ教育の話ですが、10年以上前に自分の子どもが中学校にあがった時に外国の文化・言葉の理解という授業があり、学校に呼ばれた経験があります。そのあと、他の中学校に呼ばれたこともありましたが、その時はまだ多文化共生の教育・理解が盛んでなく継続はできませんでした。今後、国際理解教育をしたい、勉強会をしたいという学校があれば、提供できる授業・資料があればいいと思います。前は定期的に行うことはできなかったのですが、これからは同じような話があれば定期的に提供できる方法があればいいと思います。私たちは今までキーパーソン制度がない時は、誰ができるんだろうとなっていました。今はキーパーソンのグループになったので、グループの活動の一つにもなればなと思っています。

会長

ありがとうございます。次のキーパーソン事業の説明について、ちょうど今のご意見について、小学校・中学校にも活動を広げられないかという話にも繋がりますので、説明をお願いします。

事務局

(「令和3年度の松本市多文化共生キーパーソン事業」について資料を用い事務局から説明)

会長

説明ありがとうございました。キーパーソン・ネットワークについて、プラン本編のP43一番下に指標とあり、令和7年度のキーパーソン登録者数の目標が「50人」とありますが、現時点で、すでに達成(会議開催時:51人)しています。ここにいらっしゃるみなさんもぜひお忘れなく登録いただければと思います。そして私は、キーパーソンLINE登録者の29人の内の1人でもあります。LINE登録者は、先日の8月の豪雨の際も「避難所開設情報」など災害情報が入り、子どもたちにLINEを見せながら、避難所の確認などをしていました。災害時等不安な時にそういった公的な情報が入るのは本当にありがたいことです。また、災害情報以外にも、県の出張相談会情報などイベント情報なども入ってきています。キーパーソン・ネットワークも、第2次プランの最後に市が動き、登録制度、LINE、インセンティブを整備してくれました。目標は50名ですが、

100名を超す登録者で7年度を終えたいと思います。また、先ほど他の委員さんからありました、教育委員会などとの連携も考えたいなと思います。

8月29日の県ヶ丘高校とのイベントは、コロナのおかげで実現したことであります。コロナで留学ができないため、高校の先生から私が相談を受け実現したものです。実際には、当日の10日前に1時間の研修をし、その上でこの回に参加してもらいました。外国由来の方たちだけで20人近くいましたが、そういった方々が非常に喜んで、できれば対面で話したいという声もあったくらい、非常に熱心に参加してくれました。また、日本人のキーパーソンも何人も参加してくれ、日本語教育であったり、生活サポートであったりという話をさせていただきました。

もう一つこれに加えると、今登録されている外国由来のキーパーソンの人たちは、これも人権共生課の事業である「松本市留学生応援ファミリーの会」には参加できません。現役の留学生ではないためです。これは、私は非常にもったいないと感じています。松本市が人もお金もつけて熱心に活動していますが、大学、専門学校などの留学生しか参加できません。元留学生でキーパーソンになっている人は何人もいます。より松本の人と交流してもらいたいのは、留学生ではなくキーパーソンだと考えます。

では、他の委員さんからご意見お願いします。

委員

一つ質問があります。私は最近LINEグループに参加しましたが、先ほどの資料にあった、キーパーソンのLINEグループで流された発信資料が見られないので、見られるように設定いただけますか。

事務局

機能上、登録時点より前の情報は見られませんので、これまで発信した内容を後ほど、メールでお送りします。

会長

他の委員さんからもお願いします。

委員

個人情報なので嫌な方もいると思いますが、キーパーソンにどういった方々がいるのか、お互い把握し、キーパーソン同士で助け合えるようになればいいと思います。

また、先ほど、外国人が地区の行事に参加しづらいという意見もありましたが、

例えば **PTA** の方や町会の方などをキーパーソンに任命するのはどうかなと思います。

また、国際理解教育の話で、グローバル教育について、学校の先生は忙しくてできないと思いますので、外国人キーパーソンなどが学校で話をするというのは、子どもたちにとってもいいアイデアだと思います。

やさしい日本語の話も出ていましたが、キーパーソン向けの資料に関して、ルビを振ってもらえると理解しやすくありがたいと感じました。

会長

今のご意見について、これから提供できるキーパーソンのリストを作るのか、もしくは研修会に来てもらって個人的につながりを作ってもらえるのか、やはり一番いいのはお互い顔を合わせて、情報をやり取りするのがいいかなと思います。あるいは、事務局に相談すれば、キーパーソン同士の情報など提供いただくことは可能でしょうか。

委員

すみません、何か相談事があった際は事務局でなく、ぜひ多文化共生プラザに繋いでもらいたいと思います。多文化共生プラザの相談員としては、キーパーソンのみなさんには「つながる」「つなげる」「参加する」「よりそう」という4つの役割をシンプルにお願いしたいと思います。日頃から親身に同胞のみなさんを支援してくださっているキーパーソンのみなさんのお気持ちもよく分かりませんが、相談というところまで立ち入ると、自分の心を痛めてしまうこともありますので、そういう案件に出会ったら多文化共生プラザに繋げていただくのがキーパーソンのみなさんの役割ですので、問題に立ち入って苦勞されないように、これからキーパーソンになっていただくみなさんにも注意していただきたいなと思っています。

会長

今のお話のように、相談を気軽に受けて自分が巻き込まれて大変な思いをすることは実際にございます。キーパーソン・ネットワークとプラザとの連携、先ほどから出ていたキーパーソン・ネットワークと教育分野との連携、それはどんどん進めていけばいいなと思います。

また、**PTA** の方などに充て職するというご意見ですが、私はあまり乗り気ではありません。というのは、自主的に **PTA** の方がキーパーソンになってくれるというのは大歓迎ですが、例えば **PTA** の会長になった方が自動的にキーパーソンにというのは、かえってキーパーソン・ネットワークがつまらないものになっ

ていく可能性があると思います。むしろ自主的に「おもしろい」「やってみよう」という方になってもらいたい。知ってもらうという意味で、学校などを通しキーパーソン・ネットワークの情報を親御さんに伝え、親御さんとしてキーパーソンになろうという方が増えていくのはありがたいです。ただ、PTAの方に自動的に、というのはちょっと違うかなと思います。

委員

地域の居場所を立ち上げてることもやっているのですが、公民館で行っている行事には出にくいんだけど、何か知らない民間の人達がやっているところには行きやすいという方も多いです。もちろん公的な補助金をもらったりしているので、全く公的なものでないわけではないんですが、そういう居場所を少しずつ増やしたいなと思っています。例えばそういう居場所にもチラシや多文化共生プラザの情報を置くといいなと思いました。

会長

第2次プランで取り上げ、実際には難しかったのですが、「多文化共生サロン」というものがありました。外国由来の方が日本人から日本語を教わったりする場を松本の街中のいろんなお店であったり、いろんな場所でどんどん作ろうということを考えていましたが、「用もないのに、なかなかお店などには行かない」という外国由来の人の声もあり、お店などに声をかける前にやめたことがありました。すでに、日本の方が集まって居場所になっている場所に、プラザなどの情報を流していくことは大事だと思います。また、外国由来の方にもそういった居場所があるよ、ということも教えていくのもいいと思います。

他の委員さんからいかがでしょうか。

委員

意見でなく、お知らせとなりますが、オンライン教育のお話がありましたが、例年ハローワーク松本では、JICEさんにお問い合わせし日本語研修を行っておりますが、コロナ禍もあり今年初めてオンラインの日本語研修を始めることになりました。これまでですと、松本市、上田市、飯田市で研修を行っていましたが、オンラインでは、長野県と静岡県合同でオンライン研修を始めることとなります。

会長

ありがとうございました。JICEはかなり昔から日本語の勉強コースを実施されており、そこで育ったキーパーソンも数多くいます。信大も昨年からは嫌になるほどオンライン授業を行っており、オンライン指導は当たり前になっています。

また静岡と繋がるという点でもうれしいですね。恐らく多文化共生の取り組みで日本ナンバーワンである浜松市もありますし、いろんな点で受講者の意識も高まればなと思います。

他の委員さんからもお願いします。

委員

警察では防災・防犯・交通ルールの啓発活動を行っておりますが、その活動の一環として、キーパーソンの方を通じて、情報提供ができればありがたいと感じております。どんなかたちで情報提供等できるのかというのは、事務局とお話させていただければと思います。

会長

非常にうれしいお話だと思います。キーパーソンを通して日本語があまりできない方にも防犯情報等を伝えていただくというのは、キーパーソン・ネットワークの重要な機能だと思います。ぜひ連携をお願いします。

委員

企業という立場からお話させていただきます。当社ではインターンシップから技能実習、技能実習から特定技能という流れの雇用を進めております。昨年、技能実習2号を終了した全員を特定技能に移行いただいて雇用させていただいておりましたが、今年ショックなことがありまして、この9月に技能実習2号を終えたベトナムの方の半数が特定技能として、県外の別の企業に移られたということがありました。移られた方々の一番の理由は、もっと残業できるところに行きたい、ということでした。なかなか、コロナ禍で雇用の条件を確保していくのは難しく、頭を悩ませているところです。私どもは行っておりませんが、技能実習生、特定技能の方々のネットワークの結びつきが強いので、企業としては困りたくなる要因なんだろうなと思っています。また、こういったキーパーソン・ネットワークに特定技能の方なども加わっていただくのは大事なことだと感じています。また、昨日うれしい出来事もありまして、先日N2に合格した特定技能の子で「松本も会社も好きだから続けたい」という方もあります。やはり、地域や居住環境が好きで選んでくれる方もいると感じました。こういう取り組みをしていただくことが、企業としても雇用を継続する上でひとつのメリットです。なかなか雇用条件面で難しいところもあり、そこは企業も努力しなければいけません。地域として取り組みをやっていただけるのはプラスだと感じます。こういった取り組みは、特定技能の社員にも周知していきたいなと思っています。

会長

貴重なお話ありがとうございます。生の現場の声・事例を聞くことができうれしく思います。最初に特定技能の在留資格ができた時、不安に思ったのが今回の件です。特定技能は転職の自由があり、県外などへの転職もできます。また、多文化共生に関わる者の間では常識ですが、外国人材受入に関して、日本は韓国や台湾に完全に負けています。ですので、国内でなく、国外の企業に転職ということも十分にあり得ます。そういった状況を踏まえたうえで、残ってくれる方がいるというのはやはり満足度の問題かと思えます。私の教え子でもフリーランスになり、世界中どこでも仕事ができるようになったから、松本に戻ります、という方もいます。これは満足度ですよ。そういった満足度を一部の外国の人には持たせることができる町ですので、キーパーソン・ネットワークやオンライン日本語教室など、先ほどの特定技能の方などにも松本に残りたいと思ってもらえるような活動ができればいいなと思えます。

それでは時間になりましたので、マイクを事務局にお返しします。

事務局

先ほどのキーパーソンに関するご意見ですが、キーパーソンの登録申請段階で、公表してもよいという方のお名前はホームページで公表しておりますが、個人情報関係でパーソナルな情報になると提供は難しいです。研修会などで横と横との繋がりを作っていた方がいかと思います。

また、佐藤会長進行をありがとうございました。では、以上を持ちまして第1回松本市多文化共生推進協議会を終了いたします。ありがとうございました。